

今回のテーマとなる生きものは「ワレモコウ」です！

先日、「野生の秋の七草を探せ」というタイトルで、南河内の山々で見つけた「七草」を紹介（フジバカマは見つけれませんでした...）したのですが、それらを探しているときに、「ワレモコウやツリガネニンジンもいっぱい咲いているのに、何故これらは七草に採用されなかったのだろうか？」ということを考えていました。

この疑問は今でも解決していませんが...

ところで、小林一茶の句に

『吾亦紅 さし出て花のつもりかな』 というものがありますが、どういう意味なのでしょう？

あまり花らしくない、ということなのでしょう？

早速、この花をじっくり観察してみることにしました。

### 写真 : 初秋の草原を彩るワレモコウ

草原を吹き渡る風に揺れる紅色の花は風情豊かです。

大きな「マッチ棒」に見えなくもないのですが...

### 写真 : つぼみ？

遠目には、紅色の部分が一つの花のように思ったのですが、よく見ると小さな花の集まりのようです。

この写真の花は、下の方がまだ黄緑色で、未熟なつぼみのようです。

### 写真 ・ : どれが花??

この花序を見ると、上半分が鮮やかな紅色、下半分が暗い紅色、その間に一列のピンク色の部分がありますね...

### 写真 : 花粉発見!!

真ん中当たりのピンク色の部分に黄色い花粉が見えました。

この部分が「開花中の花」ということは、上半分の鮮やかな紅色の部分は開花時にピンク色だった「ガク(萼)」が紅色に色づいたということですね！

そして下半分は開花前の「つぼみ」、つまりこの花序は上から順に開花していくことがわかりました。

### 写真 : 開花後もきれい

「吾亦紅」の“紅”は、開花後のガクの色だったのですね。

### 写真 : 周囲にはツリガネニンジン

周辺の薄紫色の影は... 「ツリガネニンジン」の花です。

### 写真 : 山頂からの風景

東側の奈良盆地を望んだところです。

大和三山や明日香丘陵が見えています。

















